

審議会等の会議録

会議の名称	令和５年度第１回大牟田市子ども・子育て会議
開催日時	令和５年７月２７日（木） １３時００分～１５時００分
開催場所	市役所本庁舎３階 ３０２会議室
出席委員	【８名】 ・宮田 忠雄（大牟田市退職小学校長会） 【会長】 ・坂口 明夫（甘木山学園） ・馬場 朋文（大牟田市社会福祉協議会） ・北野 真由美（りんどう学園） ・辻 裕子（大牟田医師会） 【副会長】 ・堤 さゆり（大牟田市小学校長会） ・安元 大介（大牟田地区私立幼稚園協会） ・渡部 綾（市民委員）
欠席委員	【６名】 ・猿渡 保生（大牟田市保育所連絡協議会） ・奥藺 睦子（大牟田市民生委員・児童委員協議会） ・早川 由美子（大牟田市学童保育所・学童クラブ連絡協議会） ・西田 真理（大牟田市立小・中・特別支援学校 PTA 連合会） ・妹尾 嘉奈子（市民委員） ・井形 美里（市民委員）
事務局	保健福祉部子ども未来室 原室長 保健福祉部子ども未来室 子ども育成課 吉澤課長、橋本副課長、豆塚主査、坂田主査、 永井主査 子ども家庭課 橋本課長、板谷主査、鶴田主査、池田主査
公開・非公開	公開
傍聴者数	２名
会議次第	1 委嘱状交付等 （１）委嘱状交付 （２）市長挨拶 2 会長挨拶 3 議題 （１）子ども・子育て応援条例について （２）第二期子ども・子育て支援事業計画の推進状況について 4 報告事項 （１）今後の天領保育所の充実に向けた検討について 5 その他

《会議の経過》

1 委嘱状交付等

出席委員に委嘱状を交付し、市長が挨拶を行った。

新たに委員に就任した北野委員が挨拶を行った。

2 会長挨拶

宮田会長が挨拶を行った。

3 議題

(1) 子ども・子育て応援条例について

資料 1-1、1-2、1-3、1-4 に基づき事務局から説明。

(委員)

第7条第1項が変わったことはとてもいいことだと思う。狙いは恐らく、子育ては大変だけど、愛情を持ってしっかり子どもを育てほしいというメッセージに加えて、具体的な状況に応じて必要な支援や協力を得て、いろんな人に支えてもらいながら子育てをしてほしい、ということだと思うが、そうしたメッセージは、今の時代にはとても必要なこと。それをもとに行政サービスであったり、学校のPTAや保育所・幼稚園の保護者同士など、仲間で子育てをするようなニュアンスに広がったかなと思っている。周囲の支援や協力を得ることを求めるというのは、とてもよかったと思う。

(委員)

私も日頃大牟田市の制度を活用しながら子育てをしているが、保護者に過度に負担がかからないよう修正していただいたのはありがたい。親として負担を感じ過ぎずに子育てしていけるまちになっていけたらと思う。

(会長)

今、保護者は孤立しがちで相談をしたくてもそういう環境にないなど色々な事情を抱えているので、この修正を加えることで保護者自身が相談をしていいんだ、援助を得ていいんだということが伝わるのではないかなと思う。

資料 1-5 に基づき事務局から説明。

(委員)

事前配布された案では、項目名と内容が合っておらず分かりにくかったが、本日配布された修正案では、条例と項目がリンクしていることが分かりやすくなっている。

(委員)

私も事前配布の案ではわかりにくいと感じたが、修正によってわかりやすくなったと思う。

(会長)

この会議で出された疑問点や意見は反映されていると思う。特に「4. 条例の推進にあたって」に記載されているとおり、今後の計画の中に本条例の内容をしっかり反映し

ていただくこと、それが実現できるような裏付けが重要であるため、本会議としても市長に強く要望をしたい。

(2) 第二期子ども・子育て支援事業計画について

資料2に基づき事務局から説明。

(会長)

子育て情報の発信について、私が一番見やすいのはLINE。市が公式LINEを出しており、子ども・子育てに関する情報も詳しく記載されている。気軽に見られるため、公式LINEの登録者数がもっと増えるといいなと思う。他部局と連携して登録促進に取り組んでいただきたい。

(事務局)

大牟田市公式LINEについては、サービスを開始した当初から、母子健康手帳を交付する際にQRコード付のチラシを配布し登録を促している。

また、市外から転入される方にもチラシを配布しているため、子育て世帯に対しては必ず対面で登録促進を行っている。

(会長)

私は数年前の広報おおむたにQRコードがあったため登録した。LINEからアクセスできる市のホームページには、子育てを支援する情報が載っていることから、登録促進を繰り返し行ってもらい、情報発信に努めていただきたい。

(事務局)

所管する広報課と連携し、登録促進に努めていきたい。

(会長)

保育所等施設整備費補助事業について、これまでは老朽化した施設の改修を中心としていたが、今後の方向性として機能強化等に対する支援を検討するとあり、大変素晴らしいことだと思う。この事業について、内容をもう少し説明してほしい。

(事務局)

現在は老朽化対策を中心に支援をしているが、災害対策が必要な園等もある。今後は災害対策のほか、機能強化に対する支援についても検討し、施設整備に対する補助を広げていきたい。

(会長)

ぜひお願いしたい。

(委員)

トワイライトステイ、ショートステイについて、児童養護施設甘木山学園、甘木山乳児園で受託しているが、乳児院のような赤ちゃんを預かる施設が近隣にほとんどないため、最近は近隣市町村との契約が増えている。かつては大牟田市、みやま市、荒尾市の3市であったが、現在は玉名市、大川市、八女市など、約10自治体と契約している。

元々、トワイライトステイ、ショートステイを受けるための専属の職員や部屋があるわけではないことに加え、契約自治体が増えてきた結果、どうしても受け入れられる数

に限りがあるのが現状。大牟田市にある施設のため大牟田市を優先したいと思っているが、子育て支援の充実を図るために近隣市町村がそうした動きをしている現実もある。

ただ、コロナも5類になり、園の様子や入所状況を見ながら積極的に受け入れることとしており、最近は週末に何名かの受入れを行った。

(委員)

評価には関係ないが、保育所等業務効率化・安全対策事業について、大牟田市でもICTの活用を支援されるようになったが、既に導入している施設については何の補助もない。早くからICTに取り組んだ施設は、大牟田市が手を挙げておらず国の補助制度を活用できなかった。そうした先進的な施設に対しても支援してもらえよう、補助の内容を充実していただきたい。

(事務局)

ICTの設備については、既に多くの園が導入しており、子どもの安全や保護者との緊急時の連絡対応、登降園時の連絡調整に有効活用していただいている。

(会長)

放課後児童健全育成事業について、玉川小学校には学童保育所(クラブ)がないが、どのような状況なのか。

(委員)

迎えに行くにも違う校区に行かなければならないという煩雑さがあり、利用者数が少ないという状況がある。また、高学年の児童が利用したいと希望したものの、利用者数がいっぱいでは断られ、諦めているケースがある。待機児童には含まれていないものの、本当は利用したいけれども利用できないという児童がいるのが現状。

(事務局)

放課後児童健全育成事業では、令和4年4月1日時点の待機児童は36人となっているが、委員のご指摘のとおり潜在的な待機児童はまだ存在していると考えている。こうした中、今年度は銀水、三池、天領校区、来年度は大牟田中央校区に新たな学童施設を建設し、待機児童に対応していくこととしている。また、施設整備以外にも校区外送迎事業や夏休み児童預かりモデル事業などを活用しながら、利用を希望する全ての方が利用できるようにしていきたいと考えている。

(事務局)

玉川小学校や上内小学校については、全体の児童数の兼ね合いなどもあり、専属で学童保育所(クラブ)が設置できていないことについては申し訳なく思っている。玉川小学校区については、送迎先である天の原学童クラブが天の原小学校区と玉川小学校区の利用者でいっぱいとなっているので、受け皿を拡大できるかどうか、現在内部で検討している。

ハード整備に加え、夏休み児童預かりモデル事業などのソフト面の取組を組み合わせることによって、利用できる方を1人でも増やし、利用を希望する全ての方が1日でも早く利用できるようにしたいと考えている。

(委員)

私も勉強不足ではあるが、市はたくさんの事業をしている。保護者の方も、たくさん

の事業があることを知らずに、祖父や祖母に無理を言って子どもを預かってもらうことがある。また、保護者が子どものことについて相談したい時に、どこにどのように話をすればいいのかわからないことがある。学校がつなぐこともあるが、学校でも全て把握しているわけではない。保護者に市が行っている事業が情報としてうまく伝わるような工夫をしていただきたい。

(委員)

学童施設整備を進めていただいているところだが、学童保育所(クラブ)を受託している側から言わせていただくと、人材の確保が課題と感じている。保育士等人材バンク事業について、令和4年度の登録者数が9人で、就職決定者が3人とあったが、この事業をもっとPRしていただき、マッチングができるようにしていただきたい。ハードの充実は大切だが、それを担う人材をどう確保していくかについてもぜひ検討していただきたい。

(会長)

ぜひ充実した内容となるよう検討していただきたい。

(委員)

現在私の園では(今年度からの市の新規事業である)夏休み児童預かりモデル事業に取り組んでおり、28名ほどお預かりしている。半数以上が卒園児であり、小学校区は多岐にわたっている。

先ほどから新しい学童施設を作るという話が出ているが、子どもの数は減ってきているため、いつまでその施設を使うのかという点で疑問を持っている。

今年度は夏休み児童預かりモデル事業を2園で取り組んでいるが、市からは、夏休みに確実に利用できるよう通年で申し込んでいる利用者がいるという話を聞いた。このモデル事業に取り組む事業者が増えれば、学童保育所(クラブ)の利用者が少し減るのではないかと。

今年度は学童保育所(クラブ)への利用申込の募集が終わった後に夏休み児童預かりモデル事業がスタートし、利用者を募集したが、来年度はどれくらいの申込になるのか(もっと増えるのではないかと)心配している。こうした状況を見てから施設整備に取り組んでもよいのではないかと。

(会長)

今年度の取組によって、年間を通した常時利用と、夏休みなどの長期休暇時のみの一時的な利用の実績が分かると思うので、ぜひ参考にして今後の方針に反映していただきたい。

(委員)

学童保育所(クラブ)の利用時間が午後6時から午後7時までに延長したことで職員の離職があったのかどうか、分かれば教えていただきたい。先ほどのとおり施設を新しく作っても、求人が来なければ意味がなく、受け入れる事業者も大変なのではないかと。また、処遇改善についても、学童保育所(クラブ)の現状を教えていただきたい。

(事務局)

学童保育所(クラブ)の利用時間延長による影響については、ご指摘のとおり、ご自

身が子育てをしていたり、遠方から勤務していた方が帰る時間が遅くなってしまうということで辞められたケースがあると聞いている。こうした部分については、事業者の方で新たな求人をし、なんとか人材を確保してもらい運営していただいている状況である。

今回、利用時間の延長にあたっては、ニーズの把握も行っており、勤務地が遠方にある方などは午後6時に迎えに行くことが難しいという意見があった。何時まで延長するかについては、午後6時半、午後7時、午後7時半といった選択肢の中で、利用ニーズを踏まえて午後7時に決めたところである。

処遇改善については、午後6時半を越えて開所している学童施設についての国庫補助メニューがあり、今回の利用時間の延長によって、この補助を活用できるようになることから、今年度から新しい処遇改善の補助を行うこととしている。1支援単位あたりの補助上限額は約170万円となっており、指定管理料が約850万円であることから、ある程度しっかりした額を上乗せできると考えている。これに加えて、一昨年度から行っているキャリアアップ処遇改善や一律3%の処遇改善事業もある。こうした3つの処遇改善事業を活用し、なんとか人材確保につなげていきたいと考えている。

(会長)

この議題については、今回委員より出された意見を集約していただき、まとめたものが計画推進状況の評価における当会議からの意見として公表していくことになる。

4 報告事項

(1) 今後の天領保育所の充実に向けた検討について

資料3に基づき事務局より説明。

(委員)

公立保育所の1つを移譲した際、余剰人員は他の保育所にどの程度再就職したのか。保育所や学童の事業者が人手が足りないと言われている中で、辞めた人が市外へ流出するのを食い止めるような取組を充実していく必要があると思うが。

(事務局)

当時のことは詳しく把握していないが、民間委譲しているため、移譲先で雇用されているのではないかと思う。

(委員)

この20年で出生する子どもの数は右肩下がりになっており、施設を利用する子どもの数が減っている以上、スタッフの数も余っていくはずなのに、なぜスタッフが減っていくことを止められないのか。

医療業界でも、看護師をなんとかして大牟田に留めようとしているが、近隣では久留米や大川を含め取り合いになっている。保育園を充実させるには施設の老朽化への対応はもちろんだが、そこで働く人たちに対し、大牟田をいかに魅力的に感じてもらえるかが大切であると思うが、行政はどのように対応してきたのか。

(会長)

天領保育所のことだけではなく、全体の話だと思うが、事務局の見解はいかがか。
(事務局)

民間に勤めている職員が退職後、どの施設に再就職しているのかは把握できていない。学童保育所(クラブ)と同様に、国の制度として保育士や幼稚園の先生方に対する処遇改善も行われているが、大牟田市独自の人材確保策としては(人材バンク事業以外には)取り組めていない。

(委員)

ハードを整えるだけでなく、人材確保のためには幼稚園や保育所の先生の処遇をもっと改善しないといけない。外来患者の保護者で保育所の先生をしている人からは給料が見合っておらず辞めたいという話を聞く。

また、転入者の中には保育所の預け方を知らない人も多いため、そのような人が仕事を続けられるように支援していただきたい。

(会長)

今の意見は、今後の天領保育所の充実に向けた貴重な提言と思う。具体的にはこれから検討をしていくことになる。市民みんながいいなと思ってもらえるようなモデル的な保育所になることを期待する。

(委員)

公立保育所に求められる役割が具体的にどのようなものか示してほしい。他自治体では、少子化で保育所が減って、公立保育所を民間委譲しているケースも多く見られる中で、大牟田市として公立保育所を残していくのであれば、その役割について説明していく必要がある。

(事務局)

今後、幼稚園や保育所の運営事業者からご意見をいただきたいと考えている。様々な子どもの生活環境がある中で、公立保育所に必要な機能について意見をもらいながら考えていきたい。

(会長)

天領保育所とその他の保育所の違いを示すような資料を提示してほしい。例えば、どのような子ども達が来ているかなどの比較ができれば検討がしやすいのでは。

この件については、次回以降本格的に検討していく。

5 その他

子育て情報誌『おおむたっ子』、『おおむた子育てわくわくブック』の紹介、次回開催日程について事務局から説明。

(会長)

大牟田市子ども・子育て応援条例の逐条解説について、非常に分かりやすいものがあったが、今後はどうなるのか。

(事務局)

パブリックコメントでの条例案から少し変わっているので、逐条解説も修正を行うこ

とになる。条例が制定された際には逐条解説もホームページで公表する予定である。また、今後はパンフレット等の作成を行い、条例の周知をしていく予定。

閉会（15 時 00 分）